

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)ux別館 中央区 下大川前通六ノ町2230番地19 近隣商業地域、準防 事務所、工場 2015年8月 竣工 4,423.75 m ² 1,035.86 m ² 4,450.97 m ² 地上6F S造 実施設計段階評価 2014年5月20日	
---	--	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{62.2}{35.6} = 1.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	4.1
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	4.4		耐震・免震	4.6
			信頼性	4.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・災害時にテレビ放送を止まないことを第一の目的とし、構造体の重要度係数を1.5に設定すると共に、非常用発電機の多重設置を行う等BCPの取り組みを行っています。
- ・設備更新のスペース確保や更新時のステージを設置することで、建物の長寿命化を図ると共に外壁には低汚染タイプの塗料を使用することで維持管理の省力化に配慮しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ux別館	階数	地上6F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	80人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 竣工	評価の実施日	2014年5月20日
敷地面積	4,424 m ²	作成者	阿部 信之
建築面積	1,036 m ²	確認日	
延床面積	4,451 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 83%

③上記+②以外の 83%

④上記+ 83%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 建築物の維持・管理に配慮し、災害に強い建物とするとともに、室内環境の向上とエネルギー使用の合理化に関してバランスを確保致します。		その他 既存建物及び建築設備を可能な限り活用し、本計画建物と連携を図ることで環境負荷の低減を図ります。
Q1 室内環境 外壁の断熱性能を高めると共に、空調・照明のゾーニングにより省エネに配慮します。シックハウス対策等環境配慮を行います。また、分煙による運用面の配慮を行います。	Q2 サービス性能 構造の耐震係数を1.5とし建築基準法に定められた50%増の耐震性を有するように設計します。ゆとりのある天井高さの確保及びリフレッシュスペースの設置等を行い、居住面での性能配慮を行います。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地面積を確保し良好な景観を確保します。主たる建築設備(空調設備・燃焼設備)は最上階及び屋上へまとめて設け、敷地内歩行者の暑熱環境の緩和に配慮します。
LR1 エネルギー LED照明の採用や人感センサーの採用等、設備システムの高効率化を図ると共に、モニタリングや長期維持管理計画により、運用・維持・管理の積極的な提案をいたします。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器の選定等、節水に省水に配慮します。また、指定化学物質の使用回避とフロンガスによる環境影響に配慮します。	LR3 敷地外環境 管理用車輛の駐車スペースを確保し、駐車場への導入路を2箇所設け周辺道路へ配慮します。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される